

# 令和2年度 有明の丘研修 第1期 実施状況

令和2年度の有明の丘研修 第1期の実施状況として、実施概要と実施報告を次の通り報告する。

## 1. 令和2年度 有明の丘研修 第1期の実施概要

1-1. 実施スケジュール

1-2. 各コースのカリキュラム等

## 2. 令和2年度 有明の丘研修 第1期の実施報告

2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

2-4. オンデマンド講義の特徴的な工夫

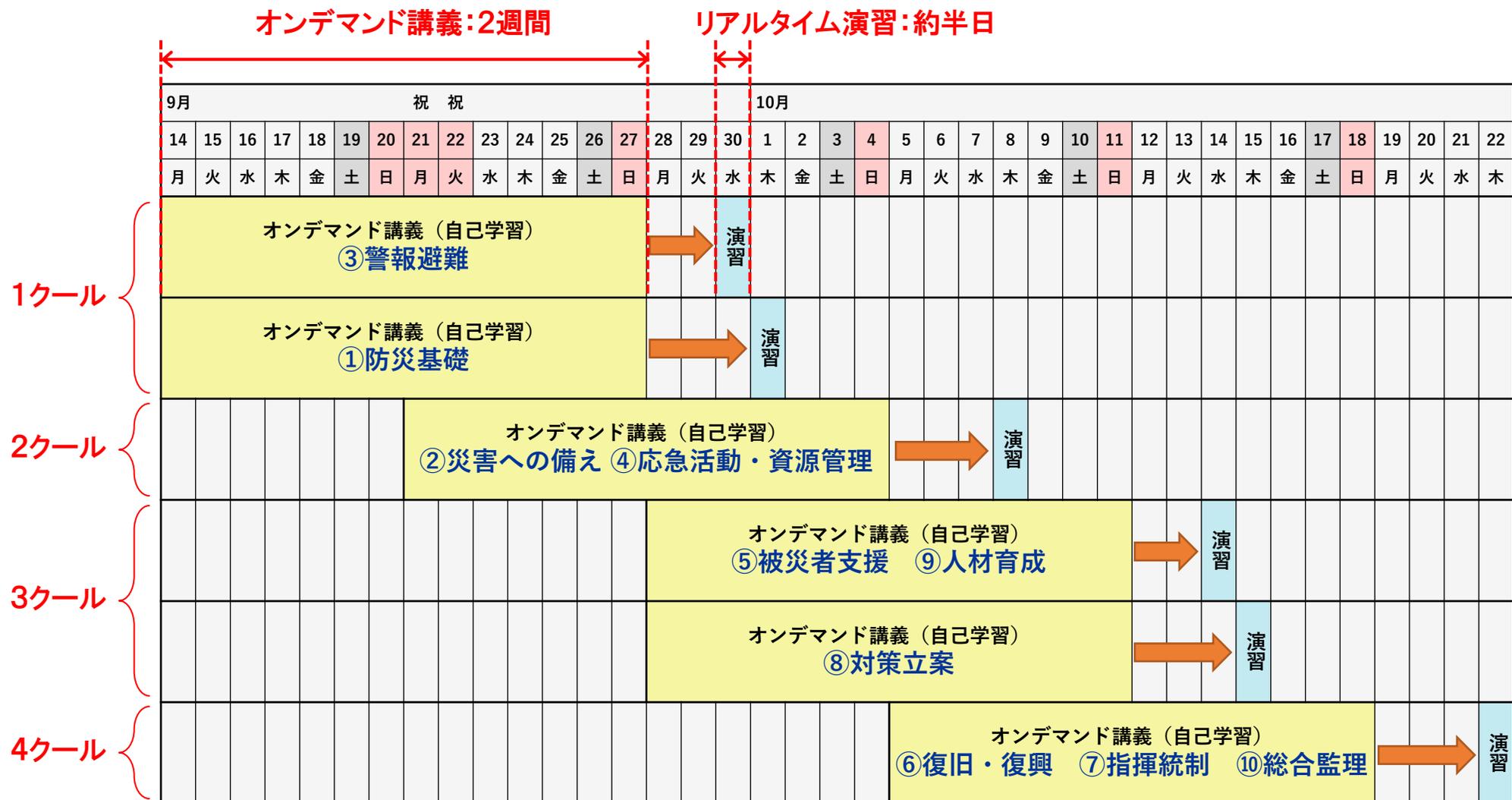
2-5. 各コースのリアルタイム演習の特徴



# 1. 令和2年度 有明の丘研修 第1期の実施概要

## 1-1. 実施スケジュール

9月14日から10月22日までの期間を4クールに分け、1クールごとに2～3コース割り当てた。  
 コースごとに、オンデマンド講義の受講期間を2週間設け、2～3日後に半日程度の演習をリアルタイム形式で実施した。





## 1-2. 各コースのカリキュラム等

各コースのオンデマンド講義及びリアルタイム演習について、実施日、カリキュラム、実施時間の合計、修了者数は下記の通りである。

コース	防災基礎	災害への備え	警報避難	応急活動・資源管理	被災者支援	復旧・復興	指揮統制	対策立案	人材育成	総合監理
日程	9月14日(月)～27日(日)	9月21日(月)～10月4日(日)	9月14日(月)～27日(日)	9月21日(月)～10月4日(日)	9月28日(月)～10月11日(日)	10月5日(月)～10月18日(日)	10月5日(月)～10月18日(日)	9月28日(月)～10月11日(日)	9月28日(月)～10月11日(日)	10月5日(月)～10月18日(日)
オンデマンド講義	1 防災基礎総論	1 「災害への備え」総論	1 警報避難総論	1 応急活動・資源管理総論	1 被災者支援総論	1 復旧・復興総論	1 指揮統制総論 (世界標準に則した指揮統制)	1 対策立案総論	1 人材育成総論	1 総合防災政策
	2-1 ハザードのメカニズムと実態 (風水害)	2 「災害への備え」としての地域防災計画、地区防災計画	2 警報等の種類と内容	2 初動対応における国との連携	2 災害救助法と被災者生活再建支援法	2 公共基盤の復旧 (基盤復興Ⅰ)	2 指揮統制の世界標準 (危機対応に必要な8つの役割)	2 災害対策本部が行う対策立案プロセス	2 訓練・研修企画手法	2 総合的な被害抑止施策の実施
	2-2 ハザードのメカニズムと実態 (火山災害)	3 防災教育・災害教訓の伝承	3 避難勧告等の判断・伝達	3 地方公共団体間の相互応援と受援体制	3 避難所のライフサイクル	3 仮設住宅 (生活復興Ⅰ)	3 指揮統制の現状	3 地図による状況認識の統一とISUTの試み	3 訓練企画運営実践Ⅰ (状況付与型図上演習)	3 リスク評価に基づく災害対応の検証
	2-3 ハザードのメカニズムと実態 (地震・津波災害)	4 企業防災	4 土砂災害における警報と避難	4 災害廃棄物処理	4 避難所運営の実際	4 コミュニティ再生 (社会復興)	4 日本社会に適した指揮統制のあり方 (危機対応組織を動かす3つの視点と14の原則)	4 応急期の政府支援	4 地域防災リーダーの育成	4 応急対策の実態
	3 地域の脆弱性と被害の実態	5 行政のBCP、BCM	5 土砂災害の事例に学ぶ	5 資源管理演習	5 要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援	5 市街地の復興まちづくり (基盤復興Ⅱ)	5 リーダーシップのあり方	5 効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習	5 大規模災害の検証と対応	
	4-1 防災行政概要	6 住民啓発	6 風水害における警報と避難	6 救援物資の調達/救援物資の輸配送	6 医療による被災者支援	6 住まいの再建 (生活復興Ⅱ)	6 参謀に託した災害対策本部運営	6 災害対策本部運営演習		
	4-2 災害法体系	7 地域の自主的な防災活動	7 風水害からの警報避難における決心	7 活動拠点・環境の確保	7 多様な主体による被災者支援/被災者支援の個別課題	7 地域産業の復興と雇用確保 (産業復興)	7 災害広報演習			
	4-3 防災計画	8 災害ボランティア	8 風水害におけるタイムライン計画	8 救援物資ロジスティクス演習	8 生活再建支援業務					
時間計	7:56 (476分)	7:00 (420分)	7:00 (420分)	7:47 (467分)	8:53 (533分)	9:51 (591分)	7:15 (435分)	6:15 (375分)	3:33 (213分)	8:08 (488分)
日程	10月1日(木) 13:00～17:30	10月8日(木) 13:00～17:30	9月30日(木) 13:00～16:30	10月8日(木) 16:00～17:30	10月14日(水) 9:00～12:00	10月22日(木) 10:10～12:50	10月22日(木) 13:00～17:30	10月15日(木) 13:00～17:00	10月14日(水) 13:00～17:30	10月22日(木) 8:00～10:00
リアルタイム演習	13:00～ オリエンテーション	13:00～ オリエンテーション	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	16:00～ オリエンテーション	9:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	10:10～ オリエンテーション	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	13:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介	08:00～ オリエンテーション 受講者自己紹介
	13:05～ 災害対応過程と態度を学ぶ ・グループ討議(3回)+発表 ・解説 ・ふりかえり	13:05～ 「災害への備え」ワークショップ ・グループ討議+発表 ・解説	13:35～ 避難場所・避難所の認定と適否判断 ・個人ワーク ・解説	16:15～ 質疑応答 ・各単元の質問への解説/回答	9:50～ トイレの演習 ・講義 ・グループ演習 ・ファシリテーター発表	10:15～ 復旧・復興演習 ・グループ討議+発表	13:50～ 日本社会に適した指揮統制のあり方 ・グループ討議+発表(5回)	13:45～ 災害対策本部運営演習 ・グループ討議(2回)+発表	13:30～ 訓練企画運営実践Ⅱ (討議型図上演習) ・グループ討議+発表	08:20～ 災害対策本部体制 ・講義(30分)×2人
	14:30～ 全体討論 ・グループ討議+発表	14:55～ 全体討論 ・グループ討議+発表 ・質疑応答	11:00～ 全体討論「コースのふりかえり」 ・グループ討議+発表	11:30～ 全体討論 ・グループ討議+発表 ・講義 ・質疑応答	15:00～ 災害広報演習 ・記者会見・講評 ・グループ討議 ・質疑応答	14:55～ 効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習 ・講義(動画のふり返し) ・質疑応答	16:10～ 全体討論 ・各単元の質問への解説/回答 ・質疑応答 ・テスト問題作成/ふり返し	15:35～ 全体討論 ・各単元の質問への解説/回答 ・質疑応答 ・テスト問題作成/ふり返し	14:40～ 訓練研修の実際 ・講義(15分)×3人 ・質疑応答	09:20～ 全体討論 ・質疑応答 ・講義
時間計	4:30 (270分)	4:30 (270分)	3:30 (210分)	1:30 (90分)	3:00 (180分)	2:40 (160分)	4:30 (270分)	4:00 (240分)	4:30 (270分)	2:00 (120分)
時間合計	12:26 (746分)	11:30 (690分)	10:30 (630分)	9:17 (557分)	11:53 (713分)	12:31 (751分)	11:45 (705分)	10:15 (615分)	8:03 (483分)	10:08 (608分)
申込者数	212人	173人	149人	130人	129人	91人	102人	134人	83人	71人
受講確定者数	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人	60人
オンデマンド修了者数	55人	59人	51人	53人	55人	55人	56人	56人	54人	54人
演習修了者数	50人	54人	54人	50人	51人	54人	55人	49人	49人	54人
修了者数	50人	54人	49人	49人	51人	54人	55人	49人	49人	53人



## 2. 令和2年度 有明の丘研修 第1期の実施報告

### 2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

#### ① オンデマンド講義について(受講者)

「講義の満足度」は、オンデマンド講義全体で86.9点であり、「講義の方法や進め方の理解のしやすさ」「テキストの視認性・分量の適切さ」とも、オンデマンド講義全体で「非常にそう思う」「そう思う」の合計が85%以上であった。この結果から、オンデマンド講義であっても、昨年度と同程度の講義が提供できていたといえる。

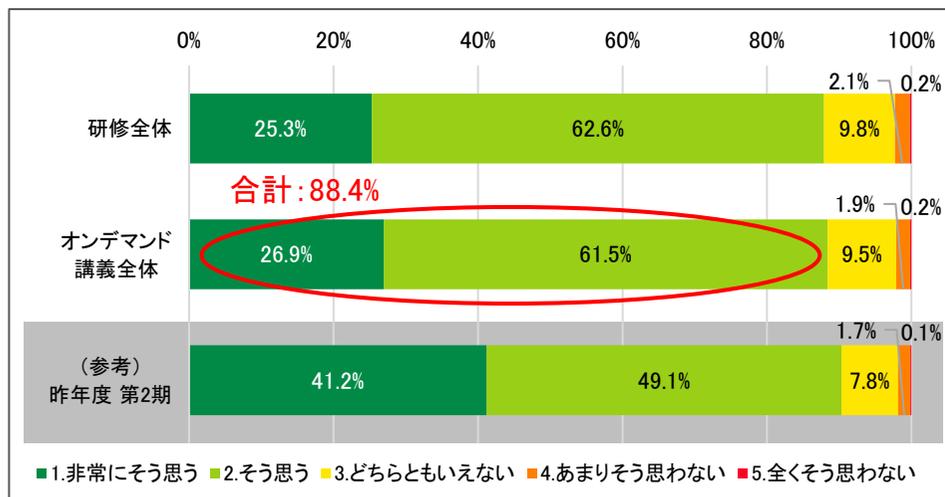
#### ● 講義の満足度

この講義・演習の内容に対する満足度を100点満点で評価してください。

コース	点数
研修全体	86.8点
オンデマンド講義全体	86.9点
(参考)昨年度 第2期	87.7点

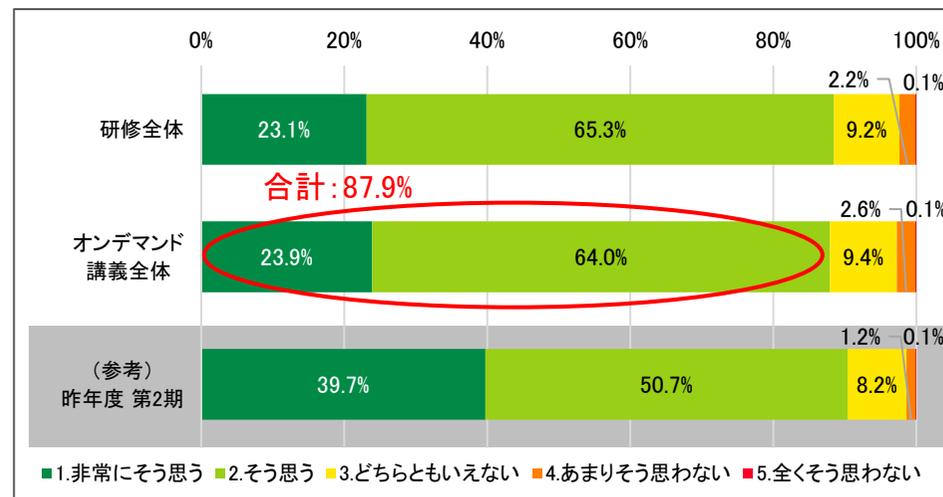
#### ● 講義の方法や進め方の理解のしやすさ

講義・演習の方法や進め方(話し方・態度・時間配分・作業・班割り等)は、理解しやすかったですか？



#### ● テキストの視認性・分量の適切さ

テキストの視認性(見やすさ、分かりやすさ)や分量は適切でしたか？



## 2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

### ② オンデマンド講義について(講師・コーディネーター)

講師からは、「撮影に不慣れでうまく講義できなかった」「撮影環境が整っていたので講義しやすかった」「受講者の顔が見えないため、反応が分からずやりづらかった」など、講義の撮影についての課題や良かった点についてご意見いただいた。コーディネーターからは、「コースの概要については、内容や形式を他コースとそろえる」「簡単に講義内容紹介を付記しておく」等の改善点についてご意見いただいた。

#### ● 講師意見

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。  
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- 撮影に不慣れでうまく講義できなかった(7人)
- 撮影環境が整っていたので講義しやすかった(7人)
- 受講者の顔が見えないため、反応が分からずやりづらかった(5人)
- 受講生からの反応として、質問やアンケート結果を知りたい(3人)
- 編集や撮り直し等により、受講者に伝えたいことを確実に伝えることができ効果的であると感じた(1人)
- コーディネーターと事前に何をどこまで話すかよいかの調整が必要(1人)
- オンデマンド講義が8時間は長い。要点を絞れば講義を短縮できる(1人)
- 受講者の利便性(受講しやすさ)を考えると、60分で1本ではなく、項目毎に4分割の方が良かったのではないか。(1人) 等

#### ● コーディネーター意見

各単元について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。  
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- 受講生の反応が見えないため、講義実施直後の時点ではオンデマンド講義の改善点については何も言えない。
- コースの概要については、内容や形式を他コースとそろえる必要がある。

単元構成や順番、学習項目・内容、教える内容などに改善点などがあればお書きください。  
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- オンデマンド講義は、受講者が自由に講義を選択できるため、簡単に講義内容紹介を付記しておくと、受講者が選択しやすいのではないかと。
- オンライン講義のため、受講生がどのような順番で受講したのか不明である。プログラムの順番に受講してもらうようにガイドが必要。
- 講義動画を15分程度で区切ったが、良い効果があったかを知りたい。

最後にご意見等、ございましたら自由にお書きください。  
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- アンケートなどを分析し、オンライン開催の改訂箇所の有無などを検討する必要がある
- 座学はオンライン講義でも効果的だった印象がある。今後の講座の在り方を検討するため、何らかの形で検証が必要。

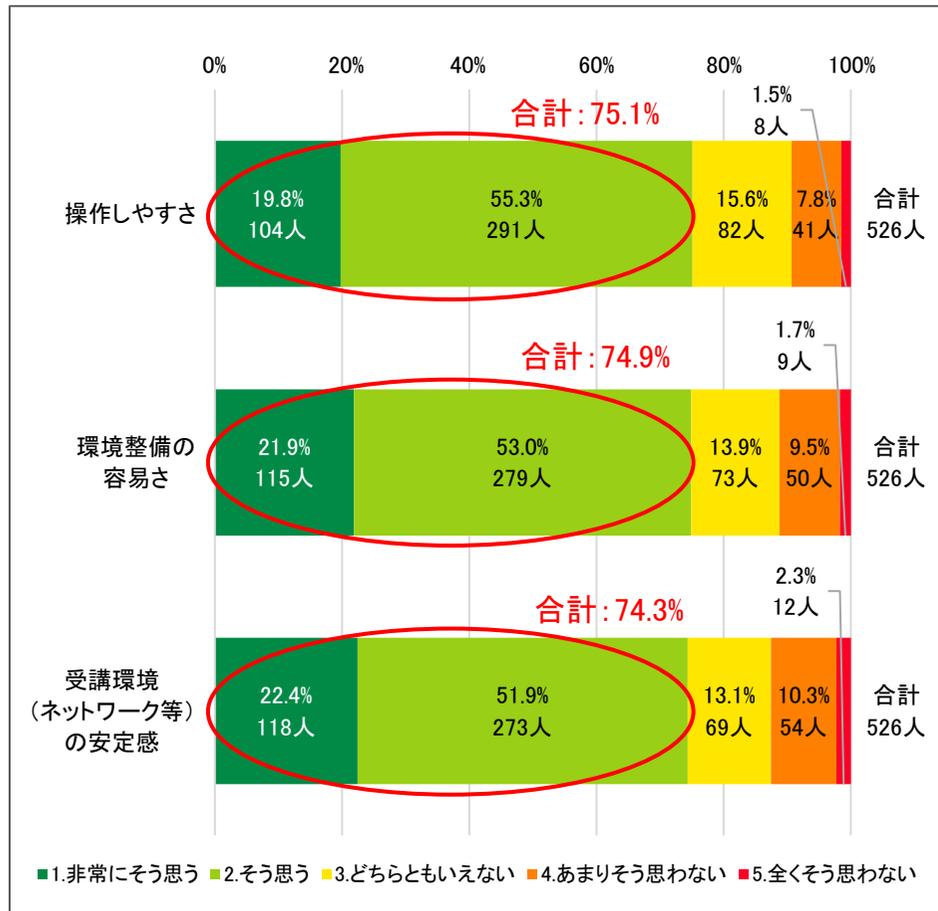
## 2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

### ③ システム(LMS)について(受講者)

システム(LMS)の「操作しやすさ」、「環境整備の容易さ」、「受講環境(ネットワーク等)の安定感」は、受講生の70%以上が「非常にそう思う」「そう思う」と解答している。オンデマンド講義の受講にあたって困ったことについては、「ネットワークの問題でうまく接続できないときがあった」「受講用のPCの手配や受講用の部屋の確保等の対応が必要だった」等の意見が挙げられた。

#### ● システム(LMS)の評価

- ・オンデマンド講義(LMS)のシステムは操作しやすかったですか？
- ・オンデマンド講義(LMS)の受講にあたって、環境整備は容易でしたか？
- ・オンデマンド講義(LMS)の受講環境(ネットワーク等)は安定していましたか？



#### ● 受講者意見

今回が初めての取組みとなりますオンデマンド講義(LMS)やリアルタイム演習(Zoom)について、今後の改善に役立てたいため、環境の整備や受講環境等、受講にあたって困ったこと等、ございましたら自由にお書きください。

※オンデマンド講義のシステム(LMS)に関する意見を抜粋

- ・ 操作しやすく問題なく受講できた(5人)
- ・ ネットワークの問題でうまく接続できないときがあった(18人)
- ・ 職場のPCでは受講できないため、受講用のPCの手配や受講用の部屋の確保等の対応が必要だった(11人)
- ・ 講義が途中で途切れて最初から視聴をやり直した(8人)
- ・ 音声の速さを大きさ等、LMSの機能を充実してほしい(3人)

## 2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

### ① リアルタイム演習について(受講者)

「演習の満足度」は、リアルタイム演習全体で86.5点であり、「演習の方法や進め方の理解のしやすさ」「テキストの視認性・分量の適切さ」とも、リアルタイム演習全体で「非常にそう思う」「そう思う」の合計が85%以上であった。この結果から、リアルタイム演習であっても、昨年度と同程度の演習が提供できていたといえる。

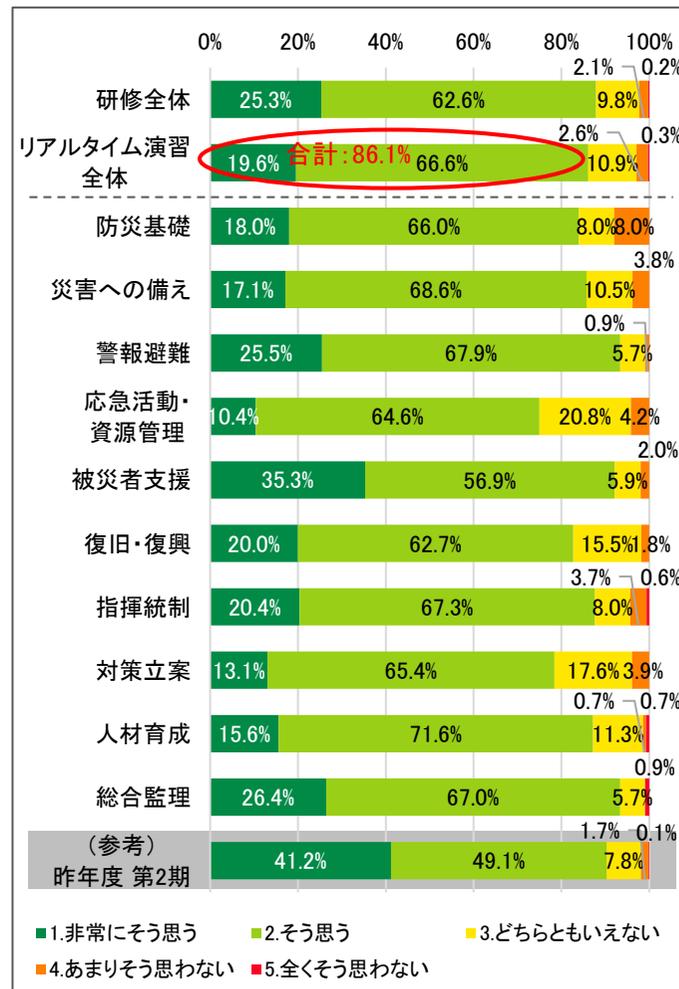
#### ● 演習の満足度

この講義・演習の内容に対する満足度を100点満点で評価してください。

コース	点数
研修全体	86.8
リアルタイム演習全体	86.5
防災基礎	86.1
災害への備え	85.5
警報避難	88.4
応急活動・資源管理	83.9
被災者支援	91.0
復旧・復興	86.1
指揮統制	87.7
対策立案	83.4
人材育成	86.3
総合監理	88.0
(参考)昨年度 第2期	87.7

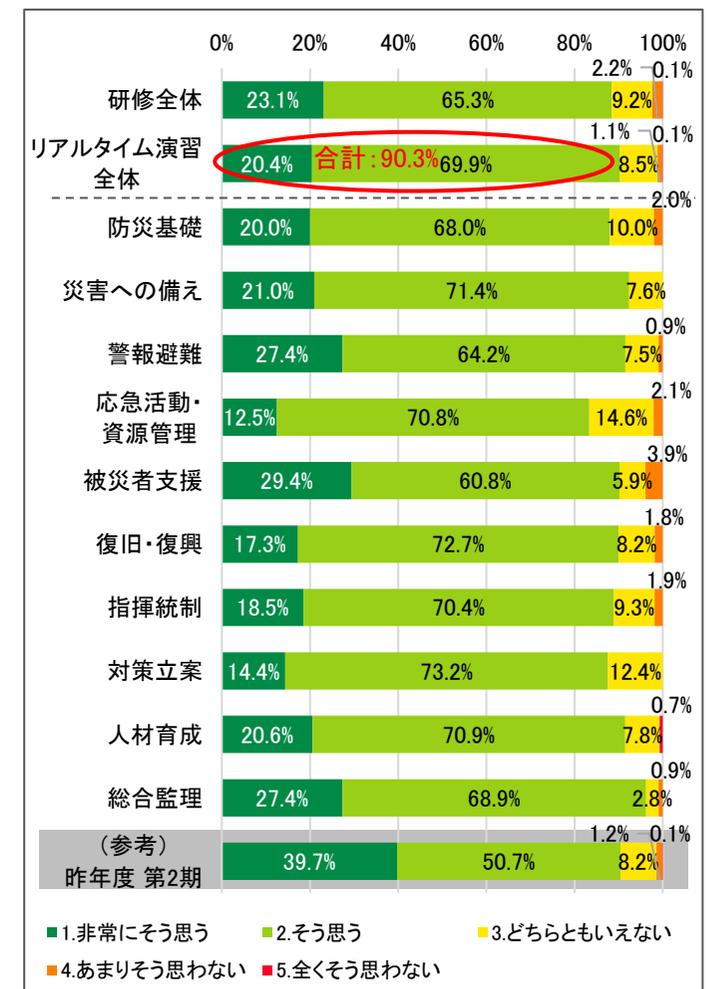
#### ● 演習の方法や進め方への理解度

講義・演習の方法や進め方(話し方・態度・時間配分・作業・班割り等)は、理解しやすかったですか？



#### ● テキストの視認性・分量の適切さ

テキストの視認性(見やすさ、分かりやすさ)や分量は適切でしたか？



## 2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

### ② リアルタイム演習について(講師・コーディネーター)

講師からは、「途中でグループワークに参加しても議論の様子が把握しやすかった」「アイスブレイキングをもう少し手厚くすべきだった」など、演習の実施についての課題や良かった点についてご意見いただいた。コーディネーターからは、「受講者も概ね熱心であり、積極的な方が多かった。」「集合研修に比べて質問者が多かった」等のよかった点についてご意見いただいた。

#### ● 講師意見

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。  
※研修全体のリアルタイム演習の改善につながる意見を抜粋

- 議論の内容をワードなどでまとめていたこと、集合研修と違って雑音が入らないことから、途中でグループワークに参加しても議論の様子が把握しやすかった(2人)
- 同じ目線で議論を聞くことができ有意義だった(2人)
- ブレイクアウトルームでの検討は、15分では短いため、20分は確保が必要(2人)
- 受講者は演習の時に初めて顔を合わせるため、アイスブレイキングをもう少し手厚くすべきだった。(1人)
- 班員の役割分担に思った以上に時間がかかったため、役割分担の方法の検討が必要。(1人)
- 今回の演習で、ブレイクアウトルームを使ったワークショップでできること、できないことがはっきり分かったので、次回はもっと教育効果の上がるように工夫したい。(1人)

#### ● コーディネーター意見

各单元について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。  
※研修全体のリアルタイム演習の改善につながる意見を抜粋

- 受講者も概ね熱心であり、積極的な方が多かった。
- 集合研修に比べて質問者が多かった。別の講演会でも、オンラインの方が質問者が多く、まともな質問が多かった。
- 集合研修の形式ではないため、議論がしづらいと予想し、グループワークの検討時間を予定より短くした。

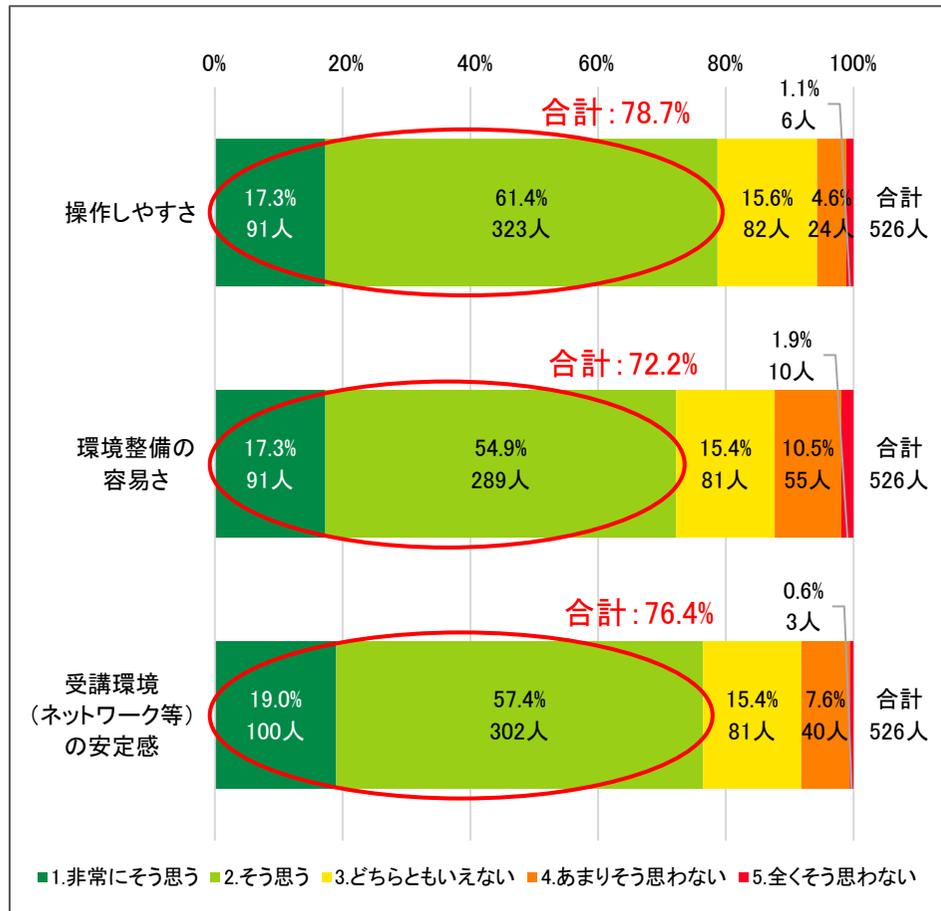
## 2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

### ③ システム(Zoom)について(受講者)

システム(Zoom)の「操作しやすさ」、「環境整備の容易さ」、「受講環境(ネットワーク等)の安定感」は、受講生の70%以上が「非常にそう思う」「そう思う」と解答している。リアルタイム演習の受講にあたって困ったことについては、「受講用のPCの手配や受講用の部屋の確保等の対応が必要だった」「Zoomや機材を使うのが初めてで操作にとまどった」等の意見が挙げられた。

#### ● リアルタイム演習のシステム(Zoom)の評価

- ・リアルタイム演習(Zoom)のシステムは操作しやすかったですか？
- ・リアルタイム演習(Zoom)の受講にあたって、環境整備は容易でしたか？
- ・リアルタイム演習(Zoom)の受講環境(ネットワーク等)は安定していましたか？



#### ● 受講者意見

今回が初めての取組みとなりますオンデマンド講義(LMS)やリアルタイム演習(Zoom)について、今後の改善に役立てたいため、環境の整備や受講環境等、受講にあたって困ったこと等、ございましたら自由にお書きください。

※リアルタイム演習のシステム(Zoom)に関する意見を抜粋

- ・ 普段から使っていたり、接続テストがあった等の理由で、特に問題なくZoomを使って受講できた(12人)
- ・ 職場のPCでは受講できないため、受講用のPCの手配や受講用の部屋の確保等の対応が必要だった(12人)
- ・ Zoomや機材を使うのが初めてで操作にとまどった(9人)
- ・ 役所ではZoom禁止のため、Zoom以外も検討してほしい(6人)
- ・ マイクが使えない、音が出ない等のトラブルがあった(5人)
- ・ ネットワークの問題でうまく接続できないときがあった(3人)
- ・ スマホやタブレットでの参加は少し不便だった(3人)

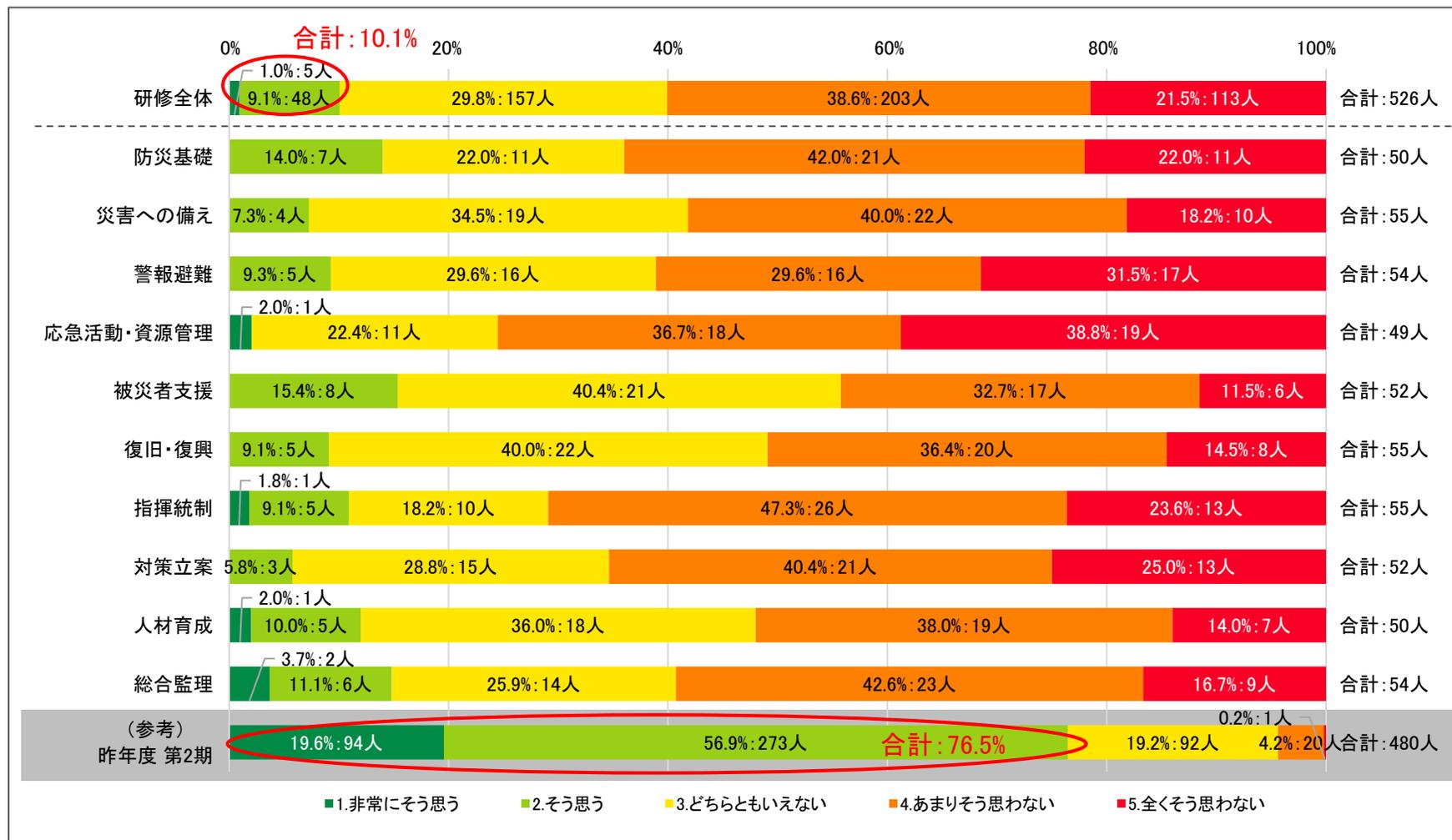
## 2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

### ① 人的ネットワークについて(受講者)

昨年度の第2期では、「非常にそう思う」「そう思う」が76.5%だったのに対し、今年度は研修全体で10.1%まで下がっている。コース別の集計では、一番高くても総合監理の15.3%であった。このことから、どのコースでも、受講者が人的ネットワークを構築しづらい研修であったといえる。

#### ● 受講者の人的ネットワークの構築状況

人的ネットワークを作ることができましたか？



## 2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

### ② 人的ネットワークについて(講師・コーディネーター)

講師、コーディネーターともに、人的ネットワークの構築に関して何らかの取組みが必要であることを認識している。

講師からは「オンライン上での意見効果・交流会」が挙げられた。コーディネーターからは、「あらかじめメールアドレスや電話番号を共有しておいてはどうか。」「会員感」を作るとよいのではないか、という意見が上がっている。

#### ● 講師意見

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。  
※人的ネットワークの構築に関する意見を抜粋

##### <人的ネットワークを構築する方法案>

- 人的ネットワークの構築として、講義終了後に参加自由な意見交換の場や交流会をオンライン上で設けてはどうか(3人)
- 講師同士でコミュニケーションが取れる機会があるとよい(1人)

#### ● コーディネーター

人的ネットワークの構築について、気づいた点、改善点などがあればお書きください。

##### <人的ネットワークを構築する方法案>

- 受講者同士で連絡先を交換できるよう、あらかじめメールアドレスや電話番号を共有しておいてはどうか。
- ブレイクアウトルームごとに希望者には、名刺交換に変わる取組みをしてはどうか。
- オンライン前提でネットワーク作りを考慮した演習の実施方法(事前・事後を含む)を検討する必要がある。
- 人的ネットワーク構築の取組みとして、チャット形式でのやりとりの場を作っても、全く知らない人同士ではうまく回らない可能性が高い。例えば、会員制のクローズドなネットセミナーを開催することも考えられるが、まずは今年から始まったメールマガジン形式で「会員感」を作るのがよいのではないか。
- Lineなどによる交流グループ作りのきっかけを作ることができれば、交流が活発化すると思うが、きっかけ作りが難しい。
- オンデマンド講義期間の早い時期にリアルタイム演習を実施しておくこと(きっかけづくり)と、その時期に、メールアドレスの共有化の許諾を得ておくと、学習期間中の人的交流が進むのではないかと。

##### <オンライン研修での人的ネットワーク構築の限界>

- 今年度のオンライン研修の形式では、人的ネットワークの構築自体が無理だったのではないかと。
- 集合研修に比べて、オンライン研修は、人的ネットワークの構築に不利である。演習のグループ以外の受講者とはほとんど交流できなかったのではないかと。

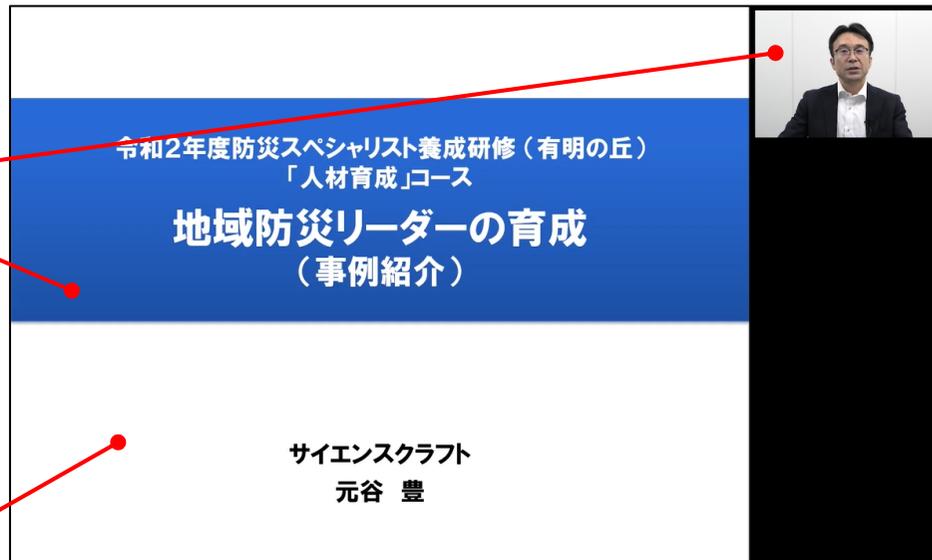
## 2-4. オンデマンド講義の特徴的な工夫

### ① オンデマンド講義の基本の構成

オンデマンド講義は、下記の画面構成、レイアウト等を基本に講義動画を作成した。

#### 画面構成

基本の画面構成は、右上に講師の映像を配置し、左側にスライドを大きく表示する構成とした。



#### スライドレイアウト①

表紙は共通のレイアウトを使用した。

#### その他

スライドを使って講師に講義いただく形式とした。

講義の最初から最後までを1つの動画に収めることとした。(講義時間で動画ファイルを区切ることはしていない)

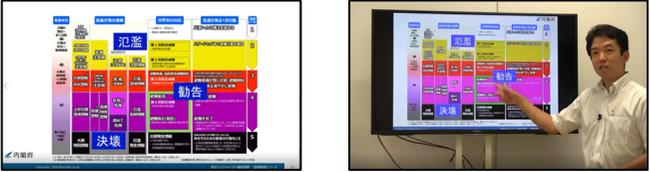
#### スライドレイアウト②

講義部分は、講師が作成した講義スライドのレイアウトをそのまま使用した。

目的	対策	自然現象の理解	被害の抑止策	被害の軽減策
いのちを守る		<b>【1】身の回りの危険</b> ・災害(地震+風水害) ・被害想定 ・地域危険度	<b>【2】災害対応・対策の基礎</b> ・耐震対策 ・家具の固定 <b>【5】地域で取り組む予防</b> ・防災まちづくり	・初期消火(演習) ・避難行動 <b>地域で取り組む応急対策 I</b> ・演習:消火活動、応急手当 ・演習:「避難誘導」 <b>地域で取り組む応急対策 II</b> ・避難所運営 ・在宅避難者対応 ・マニュアルの作成、訓練 ・避難所運営体制づくり
生き残った人の暮らしをつなぐ				
人と地域の再建・復興				

## ②オンデマンド講義の特徴的な工夫の事例

オンデマンド講義のなかで、特徴的な工夫があった事例を下記に整理する。

<p>講師1人の事例</p>	<p>スライドと講師を切り替えて、メリハリのある動画とした事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指揮統制コース: 指揮統制の現状</li> <li>指揮統制コース: 災害広報演習</li> </ul>	
<p>複数講師の事例</p>	<p>口頭では説明しづらい災害の様子や操作方法等を別撮りの動画に切り替えて、分かりやすく伝えた事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>警報避難コース: 土砂災害における警報と避難</li> <li>対策立案コース: 効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習</li> </ul>	
<p>複数講師の事例</p>	<p>進行役と複数の講師とのやりとりをシンポジウム形式の動画とした事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害への備えコース: 地域の自主的な防災活動</li> </ul>	
<p>ワークの事例</p>	<p>講師1人につき10分～15分の講義動画を作成し、1つの単元で複数講師の講義を実施した事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対策立案コース: 応急期の政府支援</li> <li>警報避難コース: 風水害における警報と避難</li> </ul>	
<p>ワークの事例</p>	<p>外部システムを使って、一人でワークができるようにした事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>警報避難コース: 土砂災害の事例に学ぶ、風水害からの警報避難における決心、風水害におけるタイムライン計画</li> <li>応急活動・資源管理コース: 救援物資ロジスティクス演習</li> </ul>	
<p>学びの型を整備した事例</p>	<p>学びの型を基にスライドの標準フォーマットを用意し、各単元の講義の仕方、資料レイアウトを統一した事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指揮統制コース全体</li> <li>対策立案コース全体</li> <li>被災者支援コース全体</li> <li>警報避難コースの一部</li> </ul>	

## 2-5. 各コースのリアルタイム演習の特徴

各コースのリアルタイム演習の内容を下記に整理する。

コース	演習のタイプ	自己紹介有無	ブレイクアウトルームの回数	班替え	演習の特徴
防災基礎	グループ検討、発表、解説、ふり返り	グループ内で実施	3回	無 (8班)	災害時に得られる情報を基にした対応シミュレーションを、前提条件と2回の状況・課題提示でグループ検討、市長に説明することを前提に発表、コーディネーター解説、ふり返りを実施
災害への備え	グループ検討、発表、解説、質疑応答	グループ内で実施	2回	無 (10班)	グループで「深く知りたいこと」「今後実施したい災害への備えの対策」について共有、コーディネーターのコメントを交えながら発表。最後に自由参加型で事前実施したアンケートの質問に対する回答・解説、質疑応答を実施(大部分の方が参加)
警報避難	個人ワーク、解説、グループ検討、発表、質疑応答	全体で実施	1回	無 (10班)	避難所点検手順書を使用して避難場所・避難所の認定と適否判断を、個人ワークで行い、講師と意見交換。グループごとにコースを通して学んだこと、もっと知りたかったことを共有、まとめた班の意見をチャットに貼り付け全員に共有・発表、事前実施したアンケートの質問に対する回答、質疑応答を実施
応急活動・資源管理	各単元の質問への解説、質疑応答	-	-	-	事前実施したアンケートの質問に対する回答・解説を時間をかけて丁寧に行い、更に質疑応答を実施
被災者支援	講義、グループ検討、発表、解説、ふり返り	全体で実施	2回	無 (6班)	トイレのガイドラインの講義後、各班のファシリテーターを中心として、グループで「災害時のトイレの必要数計算シート」の記入・検討、コースのふり返りでは、受講者中心でグループの意見共有、各班がまとめた意見をチャットに書き込み発表。(ファシリテーターを中心に意見交換が活発に行われた)
復旧・復興	グループ検討、発表、講義、質疑応答	グループ内で実施	2回	無 (10班)	国・県・市で班分け。演習では宿題の結果記入シート(Word)を事前に配布し、当日グループ内で発表・意見の取りまとめをし、奇数班が全体で発表。全体討論も同じやり方で偶数班が発表。最後にコーディネーターが講義とコース全体のまとめを実施
指揮統制	グループ検討、発表、記者会見・講評、質疑応答、解説、ふり返り	全体で実施	6回	有 (10→11班)	1単元目は、想定シナリオを基に短時間でグループ討議を繰り返す演習。2単元目は、作成済み原稿での記者会見と講評、その内容を受けてのグループ討議、3単元目は、事前実施したアンケートの質問に対する回答・解説、質疑応答、テスト問題作成とふり返り等を実施
対策立案	講義、グループ検討、発表、質疑応答、解説、ふり返り	全体で実施	2回	無 (8班)	1単元目は、事前配布の資料一式とホームワーク(帳票作成)を基にグループで議論。首長レクをイメージし代表班が発表。2単元目は、講義(動画のふり返り)と質疑応答。3単元目は、事前実施したアンケートの質問に対する回答・解説、質疑応答、テスト問題作成とふり返り等を実施
人材育成	グループ検討、発表、座学、質疑応答、講師コメント	全体で実施	4回	3回 (8→12班)	1単元目は、事前に読み込んできた体験談をもとにグループ討議と発表(エスノグラフィー演習)、2単元目は、3名の講師による講義と質疑応答。3単元目は、3つのテーマごとにグループ討議を実施。各班のまとめた意見をチャットに貼り付け、テーマごとに講師がコメント・講評
総合監理	座学、質疑応答、講義	全体で実施	-	-	2名の講師による講義後、質疑応答。コーディネーターも含め回答。質疑多し。チャットでの質問者に対し、受講生同士が自身の自治体の事例を伝えあうなどの交流も自発的になされた。最後にコーディネーター講義とまとめ(今後のため、了承を得られた方の所属先の連絡先を記載した名簿を共有した)